

本可とす
印水大
本に依て
明治十四
五月十四
被中社一
在大分縣
東植田村
宇奈岐日

村に在て、いと古くより西塞多神社也といへど、叙位の事あるを思へば、然るべからず、况や郡縣も違へるをや、故に今は社家の注進を證とす、依て式外の部に、祚原八幡宮を擧たり、併せ考ふべし、

神位

三代實錄、貞觀十一年三月廿二日庚辰、授豊後國無位西塞多神從五位下、

速見郡三座 並小

速見は波夜美と訓べし、和名鈔部名速見假字上、式廿二上、民部拾芥抄部速見、○日本紀、景行天皇十二年十月、到速見邑、有女人、曰速津媛、○豊後國風土記曰、昔者纒向日代宮御宇天皇、欲誅球磨贈於、行幸於筑紫、從周防國佐婆津發船而、渡泊於海部郡宮浦、時於此村有女人、名曰速津媛、爲其處之長、即聞天皇行幸、親自奉迎奏言、此有大磐窟、名曰鼠窟、土蜘蛛二人住之、其名曰青白、又於直入郡禰野有土蜘蛛三人、其名曰打殺、八田、國摩侶、是五人並爲人強暴、衆類亦多有、悉皆謠云、不從皇命、若強喚者與兵距焉、於茲天皇遣兵遮其要害、悉誅滅、因斯名曰速津媛國、後人改曰速見郡、

宇奈岐日女神社

宇奈岐日女は假字也○祭神明か也○油布郷に在す、社家例祭

神位

續日本後紀、嘉祥二年六月癸未朔、奉授豊後國宇奈岐比咩神從五位下、三代實錄、元慶七年

和名抄由布
郷あり

今接るに貞
觀九年二月
條に依れば
火男の五位
の神從五位
の五字脱す

九月二日乙丑、授豊後國從五位上宇奈支比咩神正五位下、

火男火賣神社

火男火女は保乃袁保乃女と訓べし○祭神

神位

○鶴見山に在す、上例祭

續日本後紀、嘉祥二年六月癸未朔、奉授豊後國火男火咩神從五位下、三代實錄、貞觀九年八月十六日壬午、豊後國從五位上火男火咩神、並正五位下、

神位

豊後國圖田帳云、弘安八年十月十六日、鶴見社御神領十五町餘、

雜事

三代實錄、貞觀九年二月廿六日丙申、太宰府言、從五位上火男神、從五位下火賣神二社、在豊後國速見郡鶴見山嶺、山頂有三池、一池泥水色青、一池黑、一池赤、去正月廿日池震動、其聲如雷、俄鼻如硫黃、遍滿國內、磐石飛亂、上下無數、石大者方丈、小者如甕、晝黑雲蒸、夜炎火熾、沙泥雪散、積於數里、池中元出溫泉、泉水沸騰、自成河流、山脚道路往還不通、溫泉之水入於衆流、魚醉死者千萬數、其震動之聲經歷三日、

海部郡一座 小

海部は安萬と訓べし、和名鈔部名海部假字上、式廿二上、民部拾芥抄部海部、○豊後國風土記曰、此郡百姓、并海邊白水郎也、因曰海部郡、